

うたびとトマス

- 1 正直ものトマスが野原で寝ころんでいると
粹まことな女がみえました
女は颯さつ爽そう堂々と馬に乗り
羊ひつぎ齒はの丘を越えてやってきました
- 2 スカートは草色の絹織りで
マントはきれいなビロード製
乗った馬のたてがみに
五十九個の銀の鈴がついていました
- 3 正直ものトマスは帽子をとって
深々とおじぎをしました
「ようこそ 尊ととき天の女王様
あなたのようなかたをみるのは はじめてです」
- 4 「いいえ いいえ 正直ものトマス」女はいいました
「わたしは天の女王ではありません
わたしはただ きれいな妖精の国の女王で
おまえをたずねてきたのです
- 5 「トマス わたしといっしょに行くのです
正直ものトマス おまえはわたしと行くのです
七年間おまえはわたしに仕えるのです
たのしい日にも悲しい日にも」
- 6 女王様はミルク色の馬を回して
トマスをうしろに乗せました
鞍くらがかたかた鳴るにつれ
風より速く走りました
- 7 四十日と四十夜 正直ものトマスは
赤い血に膝までつかって行きました
お日様もお月様もみえません
海鳴りの音が聞こえるばかりです
- 8 二人は馬で行きました どんどんどんどん行きました

そしてとうとう緑の園につきました

「おりてください おりてください 女王様
あの果実をとってさしあげましょう」

9 「いやいや それはなりません 正直ものトマス

あの果実に触れてはなりません
地獄のすべての呪いが

この国の果実にかかっています

10 「パンがひとやま ワインがひと瓶

わたしの膝にこれこのとおり

先を急ぐそのまえに

しばらくやすんで さあめしあがれ」

11 トマスがたらふく食べたとき

女王様がいました 「向うの小山に登るまえに
わたしの膝を枕におやすみなさい

そうすれば 三つの不思議をみせましょう

12 「あの細い細い道がみえるかい

山査子と野ばらのしげる道

誰も行こうとしないけれど

あれが正義の道なのです

13 「あの広い広い道がみえるかい

百合の野原を走る道

天に通じる道と ひとつはいうけれど

あれは悪の道なのです

14 「あのきれいな道がみえるかい

羊歯の丘をめぐる道

あれは おまえとわたしが今宵行く

妖精の国へいたる道

15 「けれどトマス おまえがみたりきくことは

ひとにいつてはなりません

もし一言でもしやべったら

二度と故郷へは帰れない」

16

トマスの上着はてかてか光り

靴はすべすべ緑のビロード

そして七年の月日が過ぎるまで

トマスの姿はみえません

(薮下卓郎訳)